



## インポート・データ

中学生は6日間毎日、理科と社会だけという恒例の春期講習が終わりました。社会の地理の復習では入試にもよく出る「県名と県庁所在地の異なる県」を覚えてもらいました。例えば四国の隣どうしの香川県と愛媛県の県庁所在地は高松・松山と“松”つながりです。近畿でも三重県と隣の滋賀県はそれぞれ津と大津。ちょっとした工夫で記憶に残りやすくなります。

さて今春の選抜高校野球には、その滋賀県から3校も出場したことが話題になりました。そのうち2校は公立の進学校として有名な彦根東と膳所（ぜぜ）、彦根東は初戦の慶応相手に勝利しましたが膳所は残念ながら打ち負けてしまいました。しかしその試合の序盤で相手校の監督をうならせたのがデータを元にした大胆な守備配置。普通なら外野手のいないはずのところに打球が飛んでも「そこにおるんか」とぞっとしたと言います。実は今年創部120周年を迎える膳所高の野球部には、野球経験のない男女2人が「データ班」として加わっていたのです。男子は主にデータ解析のプログラミングを担当し、もう一人のカープ女子は書道部と兼務しながらデータ入力を担当したとのこと。主に打球方向の解析を参考に、甲子園にもデータ野球で挑む。そんな経験もなかなかおもしろい青春だったのではないのでしょうか。

プロ野球の野村監督が重視していたID（インポート・データ）野球も経験や勘に頼るのではなく、データを駆使して科学的にチームを作り試合を進めていくことでした。この考え方は勉強する時にも大事です。たまたまうまくいった単元、点数を取れた科目が印象に残っていて「まあ何とかなるさ」と思っていたり、逆に失敗したテストのことをずっと引きずっていて「とにかく苦手だからやりたくない」と考えたりしていませんか。一度客観的に自分でデータを取ってみましょう。学校のワーク、塾のテキストでできていたところがテストでもきちんと正解していましたか？目に見える形で表にしてみると意外な弱点が浮かび上がってくるかもしれませんよ！